

金澤古蹟志卷卅三

城北卯辰臺下

○卯辰木町

古定書に載せたる元和二年十一月宿々傳馬役之定書に、金澤之内卯辰之木町、宮腰口之木町、森下町之末金屋町、五間に一間之可爲御役之事。とありて、宮腰口の木町は安江木町なり。昔は卯辰の木町と安江の木町との兩町に、材木の問屋共居住し、材木をば此の兩町にて商賣せし故に、兩所とも木町と稱するにより、卯辰木町・安江木町と町名を呼びわけたるものなり。元祿三年の火災記に、四丁一番町・四丁二番町・四丁三番町。と見ゆ、同九年の地子町肝煎裁許附にも、四丁一番町・同二番町・同三番町、觀音町。と並べ載せたり。元祿六年の土帳には、四丁木町二番丁。などありて、卯辰木町をば四丁木町ともまた四丁何番町とも呼べり。四筋になりたりし故に、四丁木町とも呼びたりしを、後に誤

りて四丁何番町と呼びなしたるものなるべし。今は木町何番丁と呼べり。舊藩中は七ヶ所の内にて、半役の町也。

○木町即願寺

東派眞宗也。明細帳に云ふ。當寺開基を念西と云ふ。生國美濃國高森之郷士、高森登岐守秀知と稱する處、出家と成、天正十年越中國へ移り、新川郡黒崎村に居住す。同十七年加賀國へ出で、金澤市中淺野川念西町に居住す。文祿四年三月金澤中町に一寺建立、即願寺と號す。萬治四年八月木町一丁目今の地へ移轉。とあり。

○木町圓長寺

東派眞宗也。明細帳に、當寺開基道靖と云ふ出家、天正十四年に建立、圓長寺と號す。と載せたるのみにて、自餘の來歴詳かならず。

○木町超願寺

東派眞宗道場也。明細帳に、當寺開基慶長十二年加賀國石川郡柏野驛に一寺建立、超願寺と號す。其後金澤へ出で、木町二番町今の地へ移轉す。とあり。

○念西町